



2025年3月7日

各 位

会 社 名 株式会社プロレド・パートナーズ  
(コード：7034 東証プライム)  
代表者名 代表取締役 佐谷 進  
問合せ先 執行役員 CFO 上戸 勇樹  
(TEL. 03-6435-6581)

### 当社子会社代表取締役の解任に関するお知らせ (続報)

当社子会社である株式会社ブルパス・キャピタル (以下、「ブルパス」という) は、2025年1月24日付「当社子会社代表取締役の解任に関するお知らせ」にて公表いたしましたとおり、ブルパスの代表取締役である梅村崇貴氏 (以下、「梅村氏」という) をブルパスの取締役から解任しましたが、2025年1月24日の解任後の調査において、梅村氏による利益相反の恐れのある取引が発覚したことに加え、解任日に署名捺印した誓約書に反する行為を行っていることが発覚しました。これらの事項の重要性にも鑑み、新たに発覚した事項をお知らせするとともに、解任理由の概要をお知らせすることといたしました。

#### 記

##### 1. 解任後に発覚した事項

ブルパスにおいて、ブルパス及びブルパスが運営するドルフィン1号投資事業有限責任組合 (以下、「1号ファンド」という) の投資先のレビュー業務を、梅村氏が社員として登記されている監査法人に独断で委託して、利益相反の恐れのある取引をしていたことが発覚いたしました。また、解任日において署名捺印した誓約書において、ブルパスの役員、従業員その他の関係者と連絡をとること及びブルパスの投資家と一切の接点をもつことを行わないと約束したにも関わらず、解任当日にその約束を反故にしております。

##### 2. 解任理由の概要

2025年1月24日、梅村氏をブルパスの取締役の地位から解任した理由に関する主要な事実関係の流れは以下のとおりであり、梅村氏に善管注意義務違反及び職務遂行への著しい不適任に該当する等の事由があることから、ブルパスの取締役から解任したものです。

###### ① 成功報酬に関する不適切な処理

2023年、梅村氏は、1号ファンドから受領するキャリドインタレストについて合意していた分配比率があるにもかかわらず、当該比率よりも高い比率でブルパスに分配を行う (その結果として梅村氏が受領するキャリドインタレストを増額させる) 指示をブルパスの会計業務の委託先担当者に対して行いました。その後、ブルパスへの分配比率が過大であることが発覚したため、梅村氏の目論みは阻止されましたが、梅村氏は発覚後に上記指示をしたチャットを削除するなど証拠隠滅をした上で、当社代表取締役である佐谷 (以下、「佐谷」という) に対して業務委託先の誤認により仕訳にミスがあった旨の虚偽の説明を行いました。

###### ② 当社取締役会へ虚偽の説明を行った上での独立提案

2024年10月、2号ファンドの組成について、梅村氏から、当社に対して、2号ファンドのファンド運営会社は当社との資本関係がないことが望ましいとして、同氏らが出資・設立する外部資本0%の新会社が、ファンド運営を行うスキームの提案がされました。しかしながら、当該提案は、実際には外部からの出資を受けるという重要事項を秘した提案であったことが発覚しました。

③ 事実無根のインサイダー取引規制違反を交渉材料とした2号ファンド支配の画策

2024年12月頃から、当社及びブルパスにおいて1号ファンドを踏襲したスキームにて2号ファンドの組成を本格的に検討していたところ、梅村氏が佐谷に対して、事実無根のインサイダー取引規制違反を作出し、それを交渉材料にして佐谷に圧力をかけ、2号ファンドを自らが出資する新会社に運営させることを画策していることが発覚しました。なお、インサイダー取引規制違反がなかったことは当社において確認しております。

④ 2号ファンド組成の遅延行為

梅村氏は、2号ファンドを自らが出資する新会社が運営し、同氏がより多くの報酬を得るスキームにすることを計画していたことから、それに反する当社からの2号ファンド組成に関する指示に意図的に従わず、2号ファンドの組成を遅延させ、また、2号ファンド組成後も業務遂行を事実上行わない方策について検討していたことが発覚しました。

なお、いずれの事実においても梅村氏の利用していたPCをデジタルフォレンジック対応することにより証拠となるデータを保全しております。

また、梅村氏に対して不支給となるキャリドインタレストなどのインセンティブ報酬については、当社が受領することは一切なく、ブルパスの既存職員及び新規採用役職員へのインセンティブ、並びに1号ファンドの運用（本件の解決に要する費用を含む）及び2号ファンド組成に向けた費用に充当する予定であります。

本件について関係者の皆様に多大なるご心配をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。当社として、今後は同様の事案が発生しないようガバナンス体制を強化し、ブルパス投資先企業の成長とそれに伴う企業価値向上に向けて全力を尽くしてまいります。

以上